

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		・体の大きい中高生が多数利用するときなどは狭く感じる。 ・戸外での公園あそびや水遊び、行事等による外出でカバーしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			・常に配置基準を上回る職員を適切に配置している(事業所としては利用者数に対して職員が過半数を上回るように配置)。時々、“常時見守りが必要な”児童が多い時や外出行事等のとき等に不足を感じる時もある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	・室内で車いすを使用される利用者はいないが、室内の段差の解消。小学校低学年も使えるような高さにするなどトイレの改修。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			・月1度ずつの常勤スタッフ会議とパートを入れたスタッフ会議で数カ月の行事計画を立案し、反省して次の取り組みに活かしている。毎日の取り組み後の学生アルバイトスタッフを入れた振り返り会で反省したり、伝達して全体で共有できるように努力している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		・最近の2017年5月に実施したものをもとに議論し、業務改善につなげる努力をしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			・今回初めて公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		・“第三者委員会”として「大阪障害者センター ネットワークぽぽろ」に加入しているが、まだ評価は受けたことがない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			・月1度の事業所相談員(元支援教育教員・現大学教員)との事例検討会、年4度の大学教員(発達心理学)を招いた全スタッフ研修会、その他必要に応じた研修会(昨年度は感染症と事故対応について研修)、法人の業務調整会議での研修などを行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・利用契約数が多いために、時間をかけて家族とアセスメントをとって話し合ったり、それを受けて職員間で議論することが不十分。 ・日々の振り返り会の中で議論できるように検討週間を設けるなど計画的にできるように工夫する。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・アセスメント様式については、事業所で改善して「子どもの好きなこと」などを入れるなどオリジナルなものを活用している。契約が継続される場合には、親子のねがいや困っていること、気になることなどを記入していただく欄を追加する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・取り組みの途中から勤務するスタッフについては、伝達内容は掲示しているが、漏れがあるので口頭で伝えるようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			・一番大切にしていることなので、スタッフアンケートでも「はい」が一番多かった。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・利用契約者が多いので日程調整が大変だが、可能な限り対面してモニタリングできるように努力する。 ・毎日の振り返り会に出して、支援計画の読み合わせを行いスタッフで議論するようにする。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		医療的ケアを必要とする児童を受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		・成人施設を含めた作品展や近くの成人施設の餅つき大会に参加している。 ・公園で、地域の子どもたちとのあそびを通じた交流は時々あるが、放課後児童クラブや児童館などとの交流は時間的な余裕もなく難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		・併設の相談支援事業と連携して困難ケースについては時間をかけて家族支援の懇談を行っている。 ・引き続き、相談支援と共催で行っている“キラリホットの子育て教室”などに取り組んでいく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		・併設の相談支援事業所との連携を活かして支援している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		・保護者同士で自主的に活動されている事業所支援と交流の機会と場の提供に協力している。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・迅速性に欠け、後手になったケースもあったのでその点は改善するように話し合い、対応した。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・「ぽぽろだより」(2ヶ月に1回)、ブログ「ぽぽろっこ」、子どもたちが手作りで作って書き込んだカレンダー(事業所内)等で知らせている。	
	35	個人情報に十分注意しているか	○				
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○			・ハロウィンなどで公園管理のおじさんなどに協力をお願いして参加していただくことはある。 ・水遊び・プール遊びの季節になると、周辺の近隣住民を訪問し、チラシとリーフレットで説明とご協力のおねがいをしている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○			・防犯マニュアルをつくる。 ・防災マニュアル以外は保護者には周知していないので改善する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○			・曜日によって利用児や勤務スタッフが異なるので、回数を増やして多くの子どもたちやスタッフも参加できるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○			・年度途中でスタッフの入れ替わりがあるので、徹底できるように改善する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○			・路上に飛び出す子等に突発的に対応するために、保護者への拘束の理解と同意を得る必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○			・医師の指示書の提出については、法人本部や保護者とも相談して検討する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○			・年度の事業報告でまとめた事例集をもとに全スタッフで共有するようにする。